

合理的な Windows 管理方法. No.3

村田雅和

ソフトウェア・アプリケーションのインストール

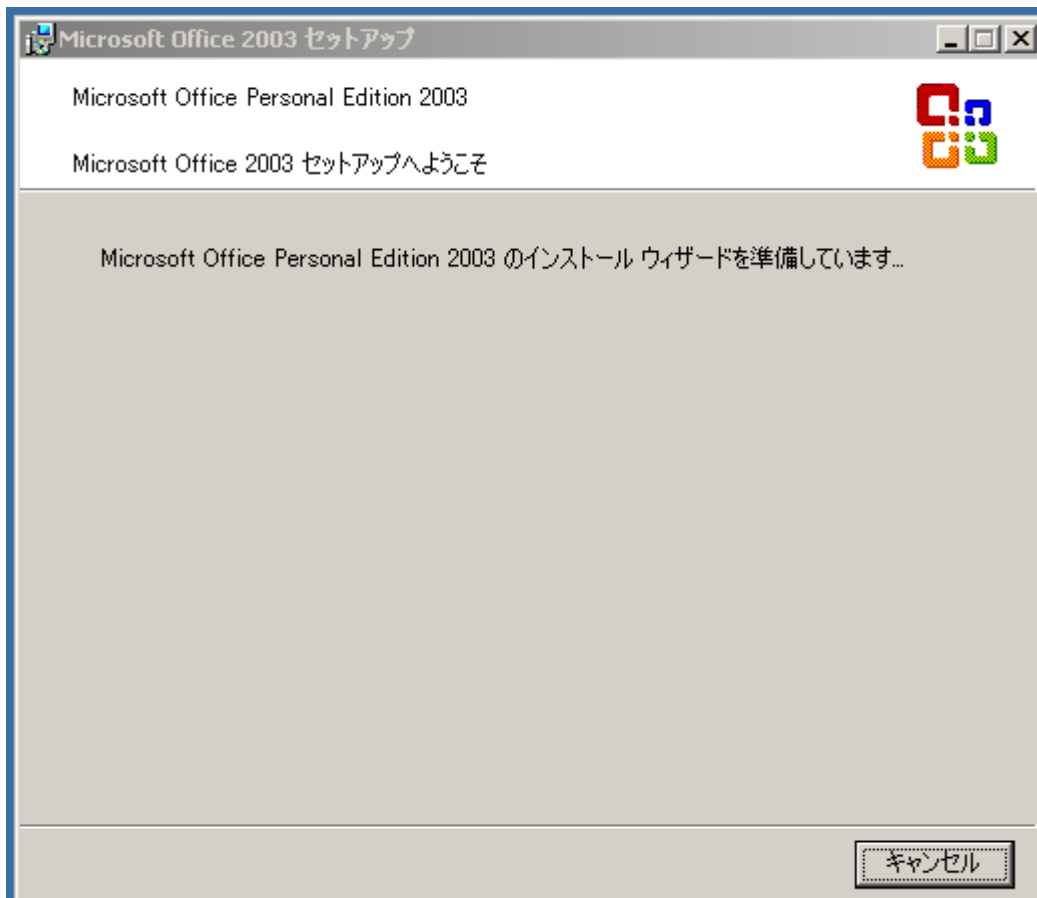
コンピュータ購入後、初心者ユーザーは何らかのソフトウェアをインストールする際、おそらく、最も手軽な自動インストールか何か手軽な方法を選択すると思う。通常はシステムドライブであるCドライブにアプリケーションがインストールされるのだが、Cドライブを圧迫すると、次第にシステムのパフォーマンスが低下して、故障の原因となる。

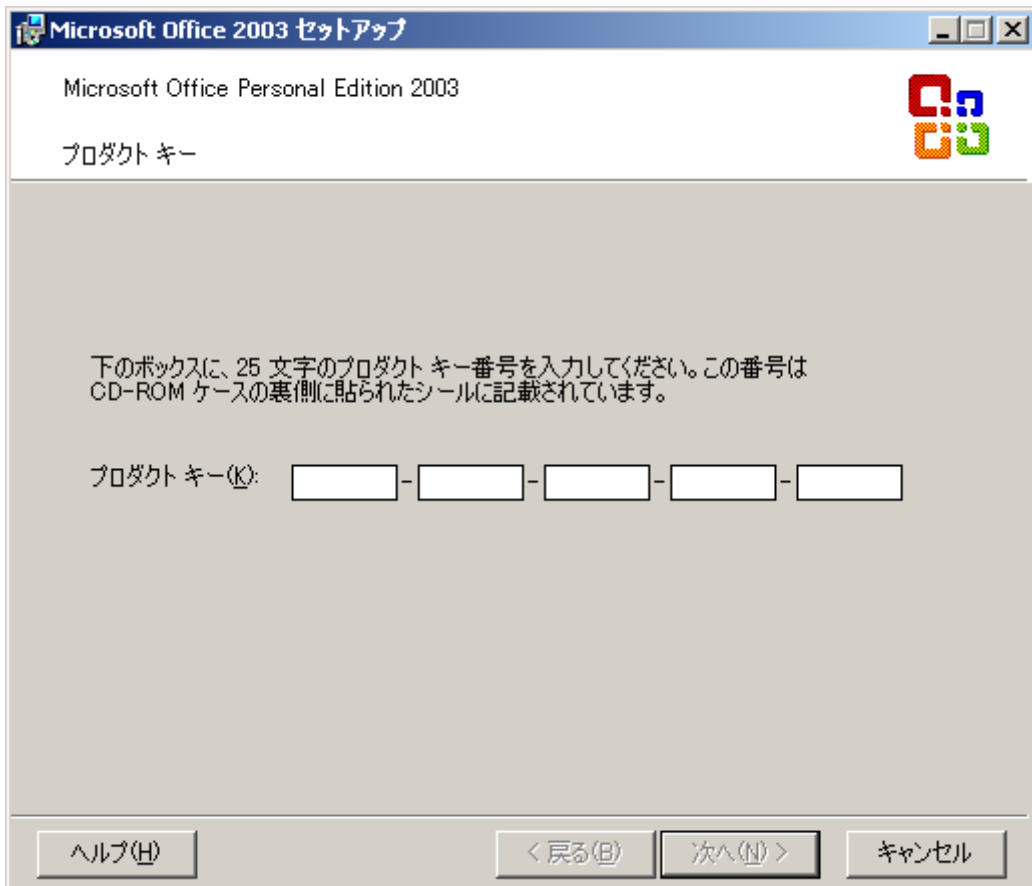
しかし、わずかな工夫で多くのコンピュータトラブルは防止できるのである。

これから Microsoft Office のインストール例を使って説明する。

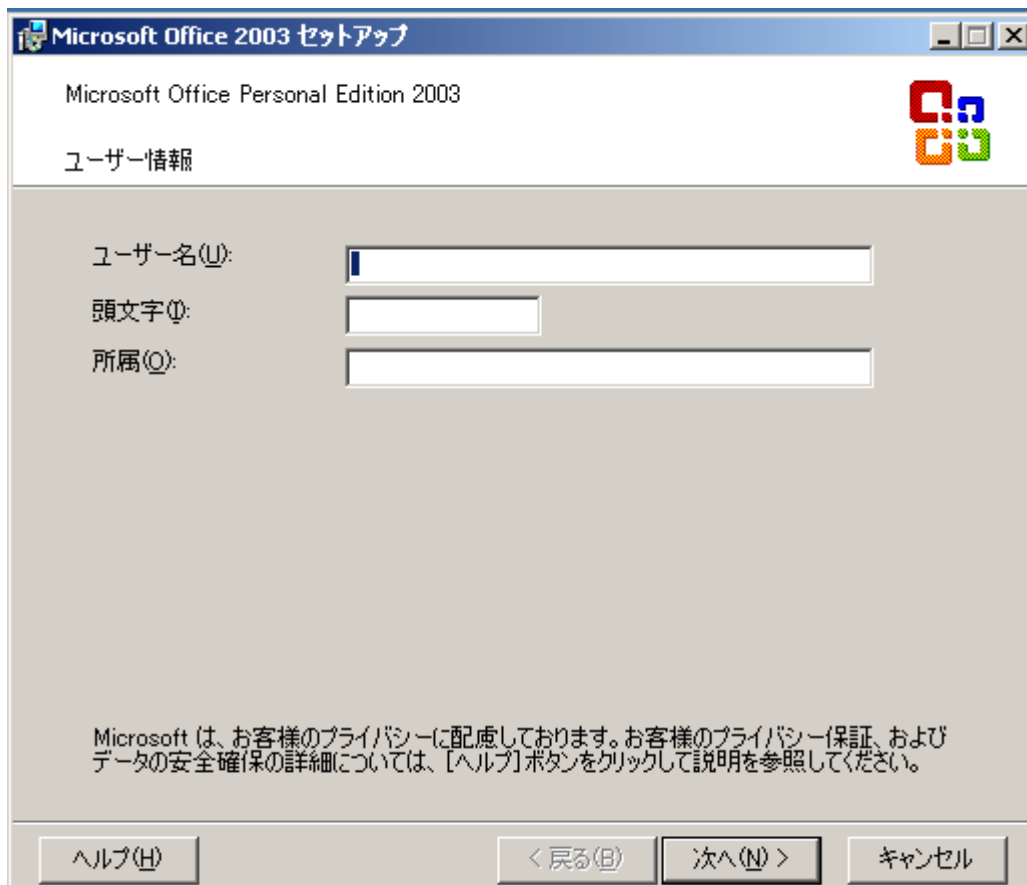
普段は Windows を貶している筆者だが、この製品は普段は Windows ユーザーでない筆者ですら欲しい製品である。Linux 用、Solaris 用とか出て欲しいが、OpenOffice.Org とプログラミング技術をもって対応するしかない。コンピュータの勉強にはなるが、やはり非常に面倒だ。理想は Oracle をマスターすることだが、コンピュータの素人ユーザーである筆者にとってはまだまだ先の話だ。

この製品の魅力は私のように経済学をやっている人には、簡単に回帰分析ができることだ。Excel を用いた経済の初歩的な分析講座をやってもいいが、只今検討中である。

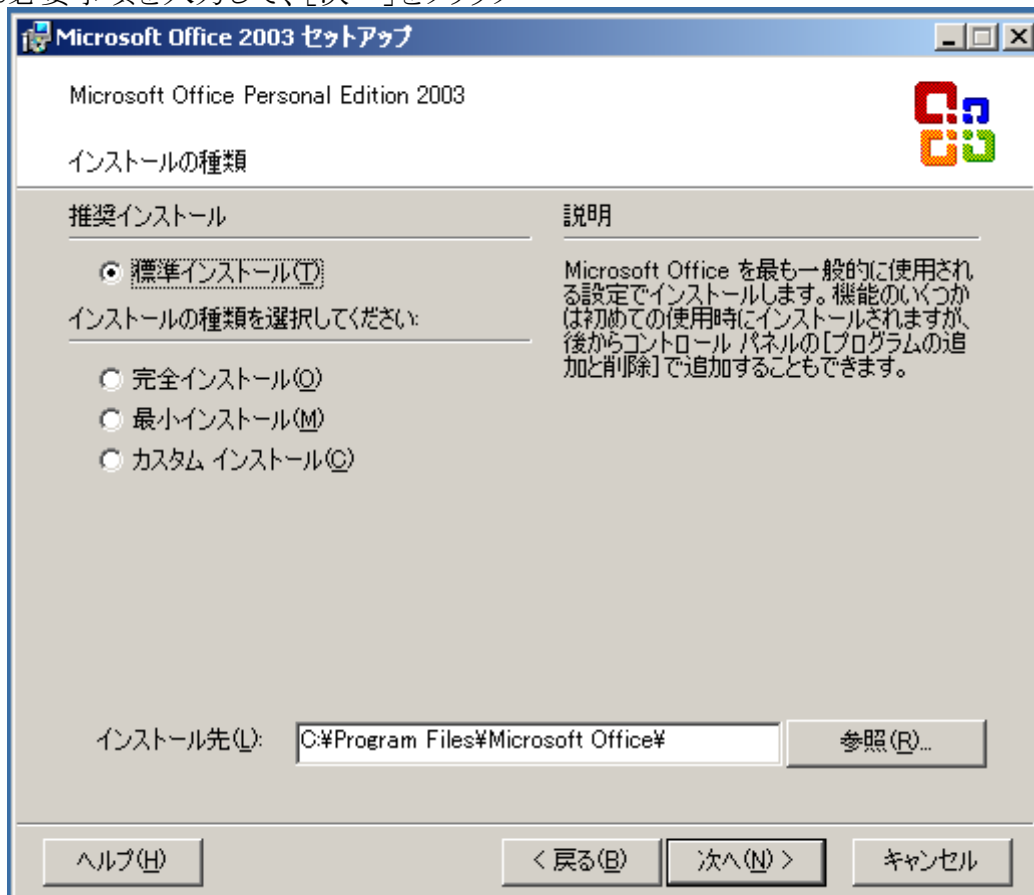




プロダクトキーを入力して、[次へ]をクリック



それぞれ必要事項を入力して、[次へ]をクリック



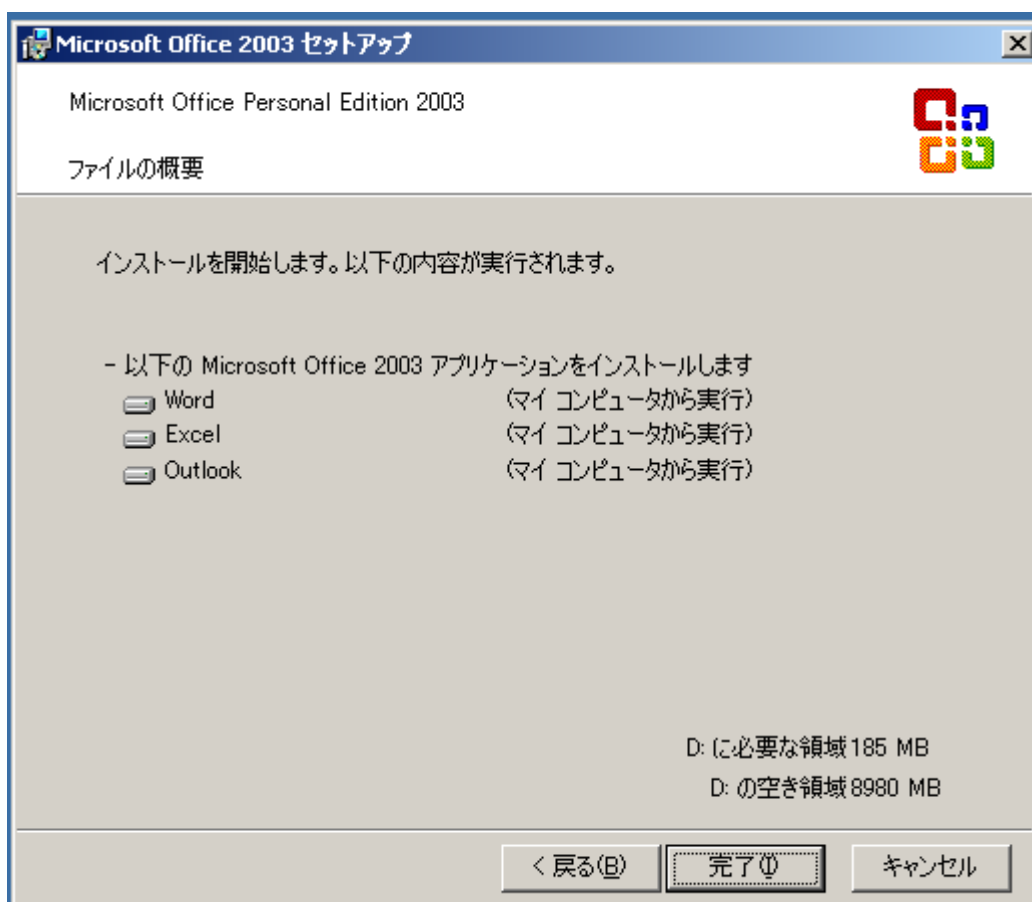
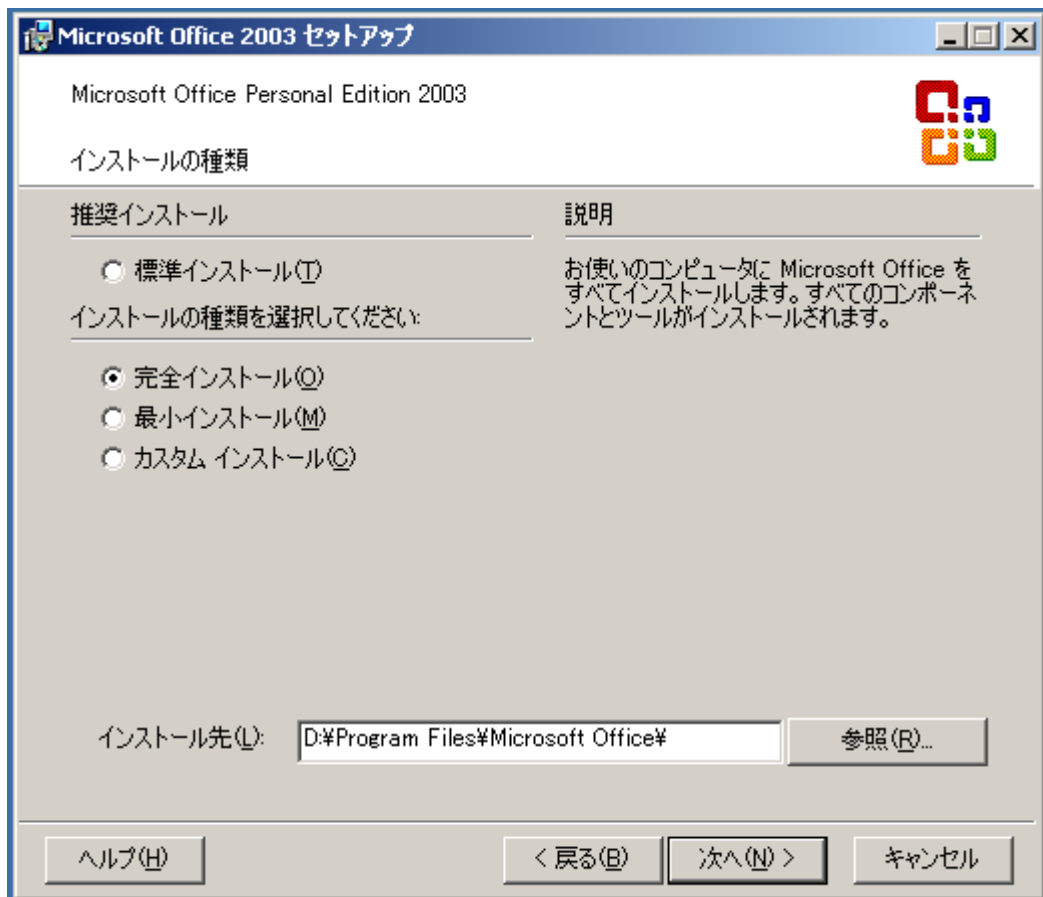
ここでインストールの種類を選択するが、すべての機能を使いたければ、完全インストールにチェックすること。

ここで、

「C:\Program Files\Microsoft Office\」

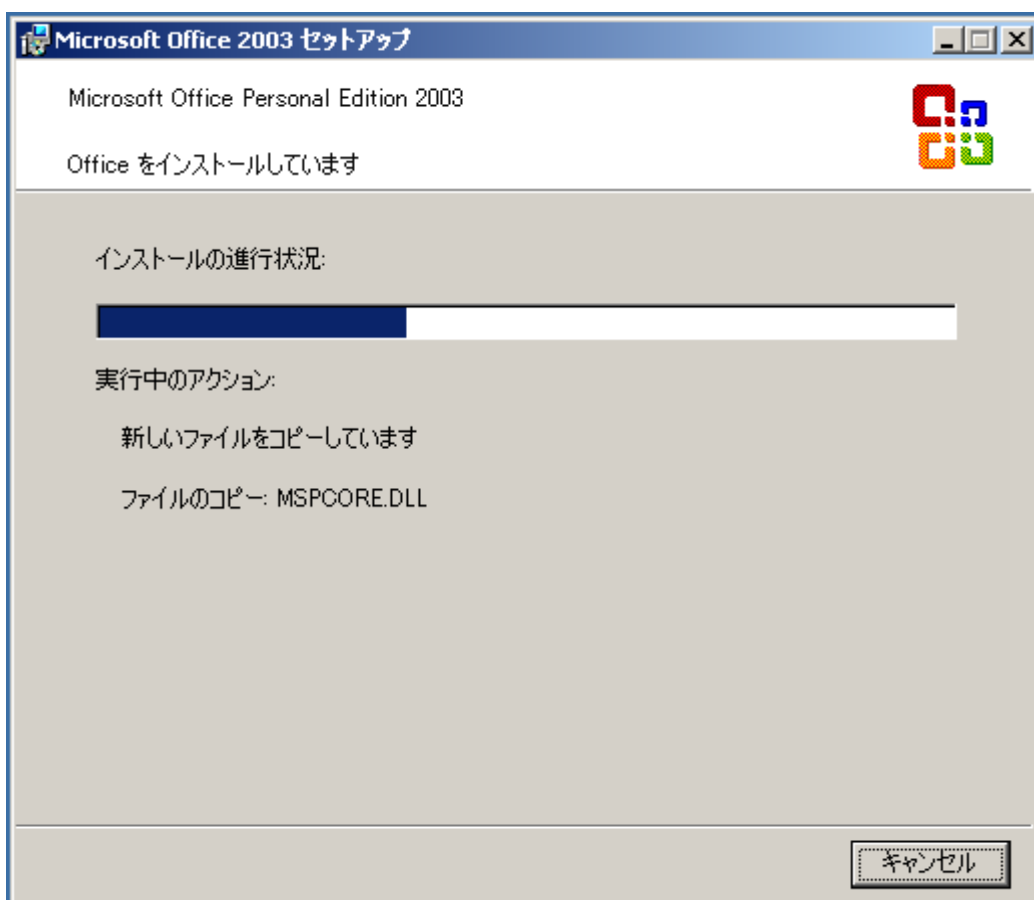
と表示されているのがわかるだろう。その意味するところは、「Microsoft Office を Program Files にインストールします。そして、それは Cドライブに格納されます。」という意味である。

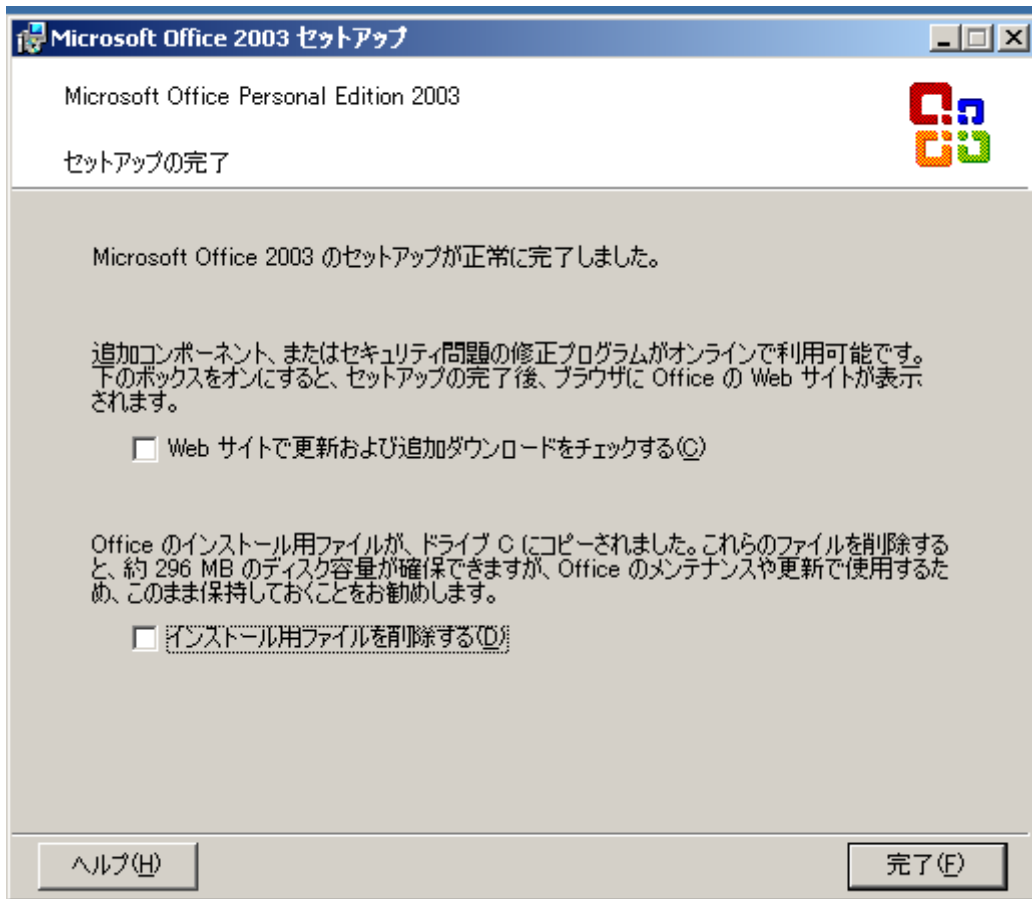
ここで、先頭の C を D に書き換え、[次へ]をクリックする。



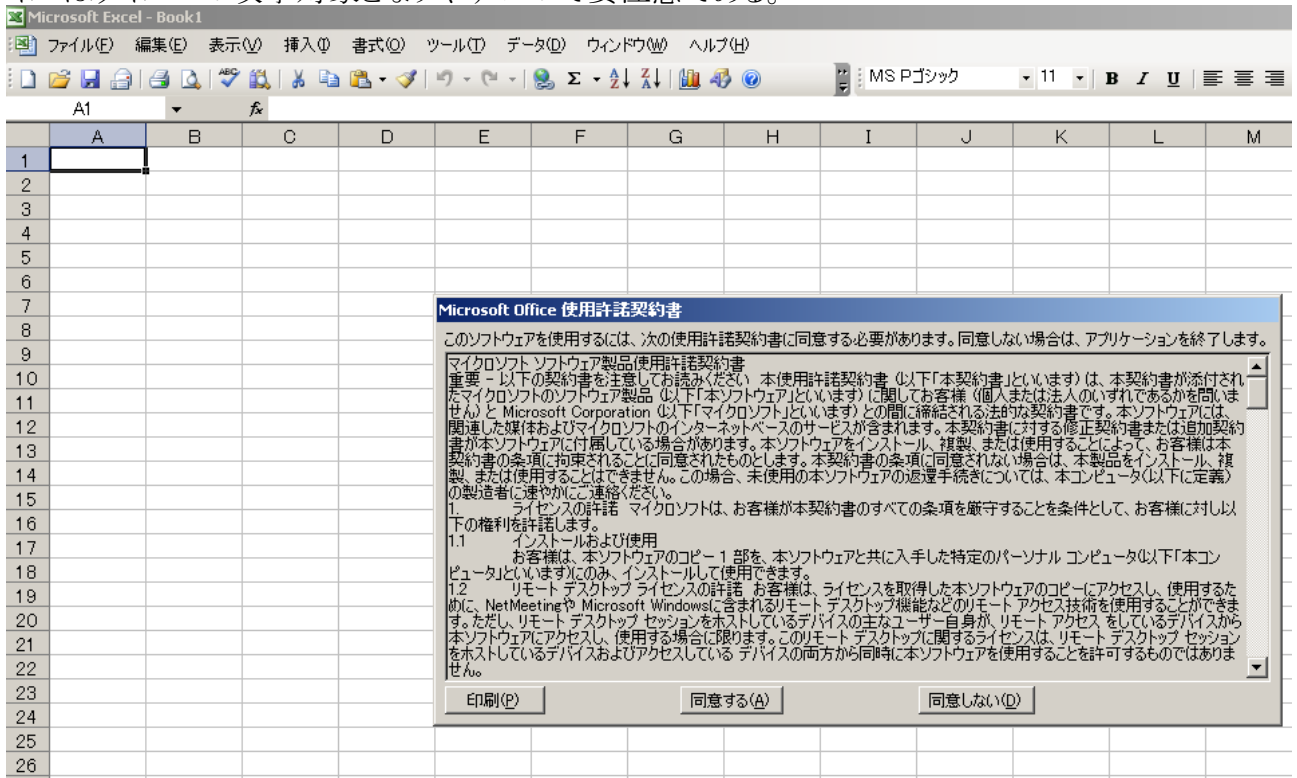
通常なら「C:に必要な領域〇〇MB」「C:の空き領域×△MB」と表示されるところが、「D:に必要な…」あるいは「D:の空き領域…」に変更になっている。Dドライブに十分な空き領域があること

を確認して[完了]をクリックすれば、DドライブにMicrosoft Office がインストールされる。

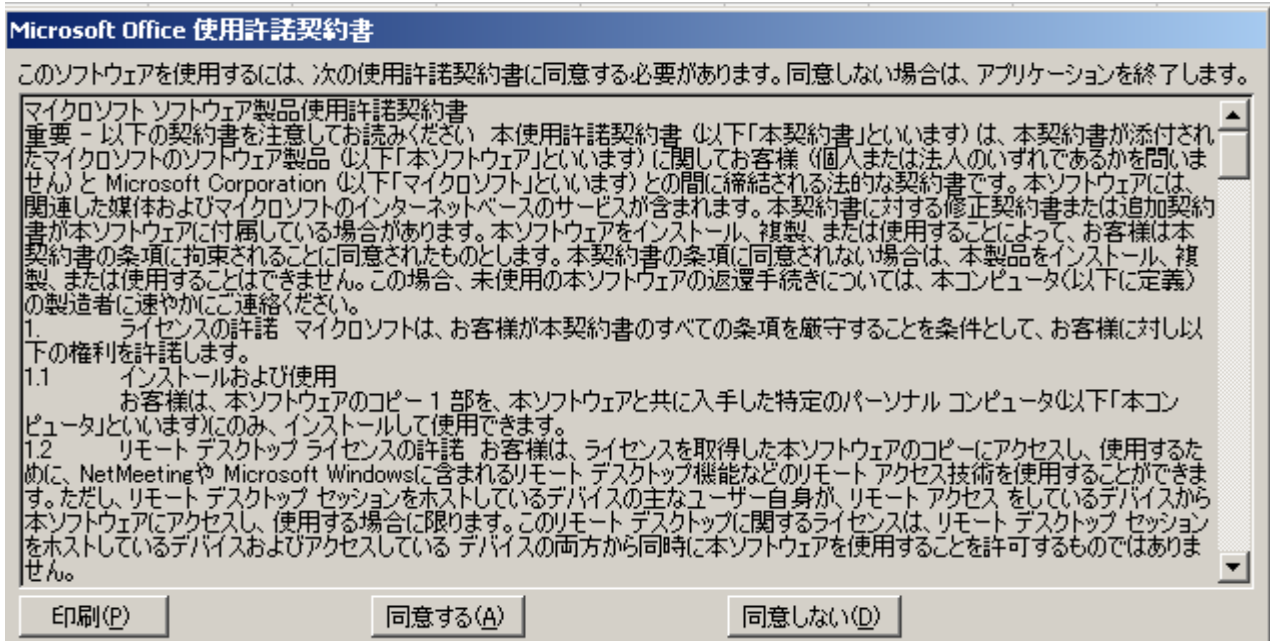




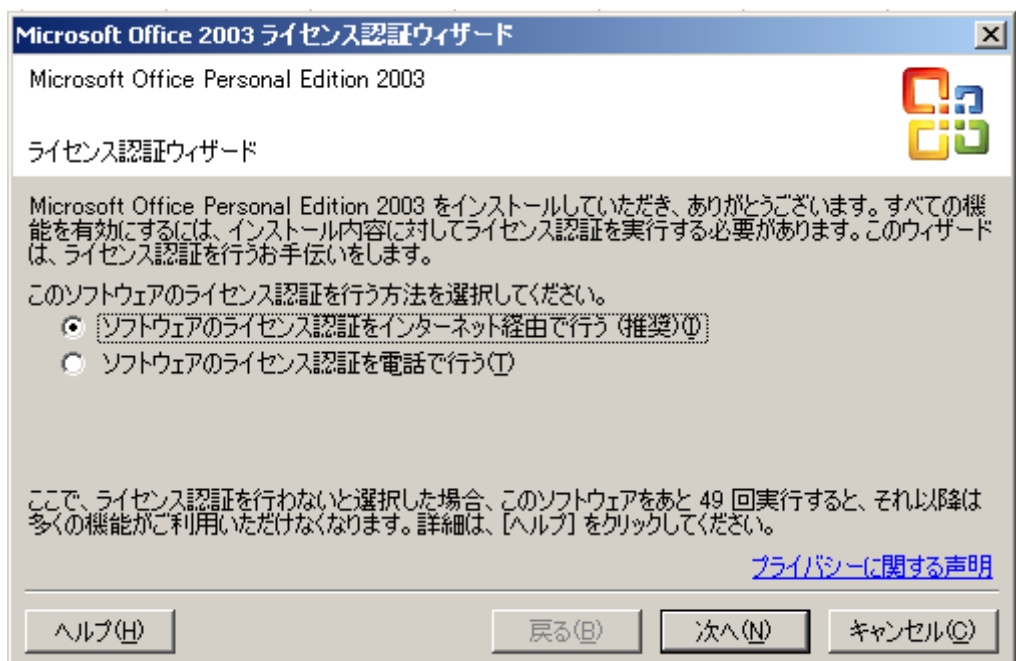
インストールに成功したので、「Web サイトで更新および追加ダウンロードをチェックする」にチェックを入れて[完了]をクリック。アプリケーションは常日頃から更新しておくとは何らかのバグやセキュリティ・ホールを狙ったウイルスからの攻撃を防ぐ手立てとなる。特にマクロを含む Word、Excel ファイルはウイルスの攻撃対象となりやすいので要注意である。



さて、Excel でも Word でもなんでもいいが、Office 製品を起動すると、最初に上のようなメッセージが出る。下がその拡大図。ソフトウェアの使用契約書である。



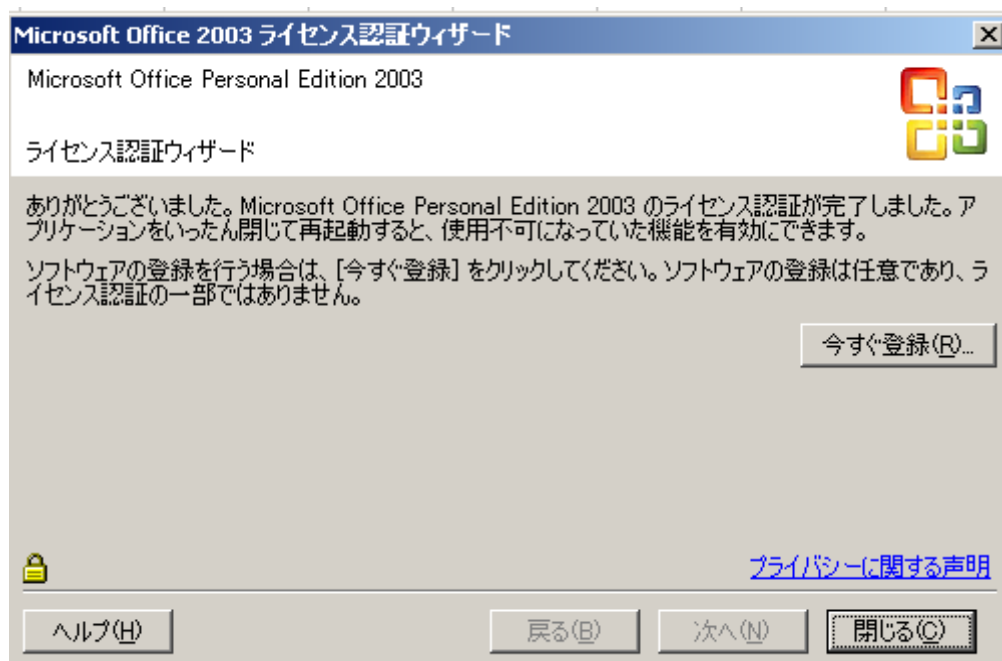
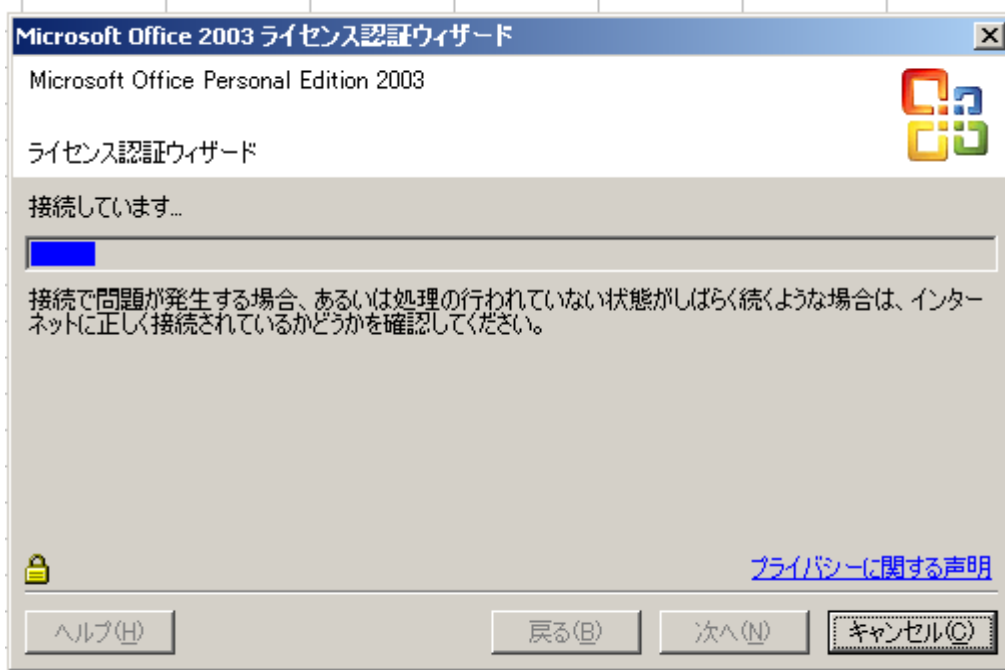
アプリケーションソフトウェアは、フリーウェアでない限り、通常は1台のパソコンに1ライセンスを「貸与」という形で提供する。そうでないと、いくらでもコピーや配布が可能になってしまい、ソフトウェア開発会社の利益が成り立たないからである。当然、[同意する]をクリックする。



コンピュータを購入した段階で「Office」がプリインストールされている場合は上のような画面は出て来ない。例えばコンピュータを自分で組み立てて「Windows」をインストールし、次いで「Office」をインストールした場合、あるいは、コンピュータに不具合があつて、リカバリを行って再インストールした場合、あるいは、「Office」自体の不具合などで再インストールした場合、上のような画面が出てくる。

ライセンス認証をしないと、このソフトウェアは50回の起動までしか使えない。今述べた再配布を防ぐためである。

インターネットへの接続状況を確認してチェックを入れて[次へ]をクリックする。あるいは、電話でライセンス No.を問い合わせてもいい。



稀に失敗することがあるが、その時は接続状況を確認して、もう一度チャレンジしてほしい。稀にサーバーに問題があって、時間を置いて再チャレンジして認証に成功する場合もあるからである。

さて、これまで Linux や Solaris と比較して、決して軽快な動作をするといえない Microsoft の OS である Windows を高速化する方法を、特別なソフトウェアなしに行ってきた。Microsoft 社に不足しているのは、パフォーマンスの最適化とセキュリティ面での堅牢性であるとよく云われてきたが、Windows 7はどうだろうか。互換性においても Vista は明らかに失敗だった。OS の構成の責任は

Microsoft 社にあるが、今後この会社には、セキュリティ面での向上とプロフェッショナルの育成に期待したい。

次回はコンピュータのメンテナンス方法について解説する予定である。